

全国鳥類繁殖分布調査

ニュースレター 第15号

2019年 8月 9日



アカアシカツオドリ(矢田新平)

現地調査のお礼と調査結果の送付のお願い

繁殖期が終わり、調査データが続々と集まっています。これまでに調査できたコースは全コースの8割を大きく超える2,029コースとなりました。まだ今年の調査結果をお送りいただけていない方は、早めの送付をお願いいたします。

送付はこちらのページから <http://www.bird-atlas.jp/mpmailec/form.cgi>

完了コースが80%を超えました！

調査へのご協力ありがとうございます。今年は7月23日時点で、295コースの調査結果が届いています。これまでのデータとあわせると2,029コースとなり、全コースのうちの完了コースは80%を大きく超えました。まだデータをお送りいただけていない方は、送付をお願いします。

去年までは北海道、東北、北関東など北の地域に、調査者未決定の赤いコースが目立っていたのが、それ

もだいぶ少なくなり、現地調査の完了した県も増えました(図1)。これなら、分布図もそれなりの精度で示せると思います。

今後は未調査コースの実施とともに、アンケート情報の収集による情報の補完に努めていきたいと思っています。そのために、地域責任者や種の責任者を決めて、情報の漏れについて検討いただくとともに、各地で調査報告会を実施しての情報収集もしたいと思っています。すでに、一昨年度に滋賀県、昨年度は、宮城県、静岡県、岐阜県、和歌山県、香川県、今年度は愛知県で実施していますので、今後、北海道、中国地方、九州での実施を考えています。できるだけ多くの地域で実施したいと思っていますので、未実施の地域でご希望の場合は事務局へご連絡ください。調整して実施したいと思っています。

早いもので、繁殖分布調査も今年で4年目。現地調査は、あと1年を残すのみです。来年は最終年度で残りのコースを全部実施するつもりで臨みたいと思います。

秋頃に、責任者登録いただいたけれども、まだ調査できていない方へ来年の実施の可否を問い合わせ、それを踏まえて、未調査コースの登録のお願いをさせていただきます。ご協力、よろしくお願ひいたします。



図1 調査の実施状況。黒線が調査実施済みのコース、青が責任者の決まったコース、赤が決まっていないコース。

コロニー性の鳥の分布変化

今年のゴールデンウィークに、コロニー性の鳥の情報収集をしました。1980年代に実施されたコロニー・ねぐら調査の結果と比較すると、大形の魚食性の鳥の分布北上や、小形のサギ類の分布の縮小などが確認できました。また、イワツバメの東京都多摩川の分布も調べたところ、下流域は少ないことがわかりました。



アオサギのコロニー(佐々木均)

全国鳥類繁殖分布調査では、全国各地に配置された現地調査コースで調査しています。ある程度全国に満遍なく分布している鳥については、この現地調査で、その分布を把握できますが、コロニー性の鳥など、集中分布する鳥は、そのコース配置によっては見落としが多くなってしまいます。そこで、全国鳥類繁殖分布調査のサイドイベントとして、ゴールデンウィークに「コロニー調査」を実施しました。

コロニーは必ずしも身近な場所にあるわけではないので、参加者数が少ないことを心配しましたが、57名の方から198件のデータをいただきました。調査にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

分布の広がる大形の魚食性鳥

1986-1992年に、環境省による「鳥類の集団繁殖地及び集団ねぐら調査」が行なわれています。そこで、その

結果と今回の結果とを比べてみました。カワウ、ダイサギ、アオサギといった大形の魚食性の鳥は、現地調査の結果からも分布の拡大が指摘されていましたが、コロニーの分布で見ても分布拡大が示されました。特に北への分布拡大が顕著であることがわかります(図1)。

同様に分布の縮小が顕著だと現地調査で指摘されたアマサギ、コサギ、ゴイサギといった小形のサギ類も、コロニー調査でも減少していることが明らかになりました(図2)。

その他の種については、明確な差は認められませんが、現地調査ではあまりわかっていなかったコロニーの位置を把握することができました。

イワツバメのコロニーの局所的な分布

今回の調査にあわせて、東京の多摩川でイワツバメのコロニーの局所的な分布も調べてみました。イワツバ

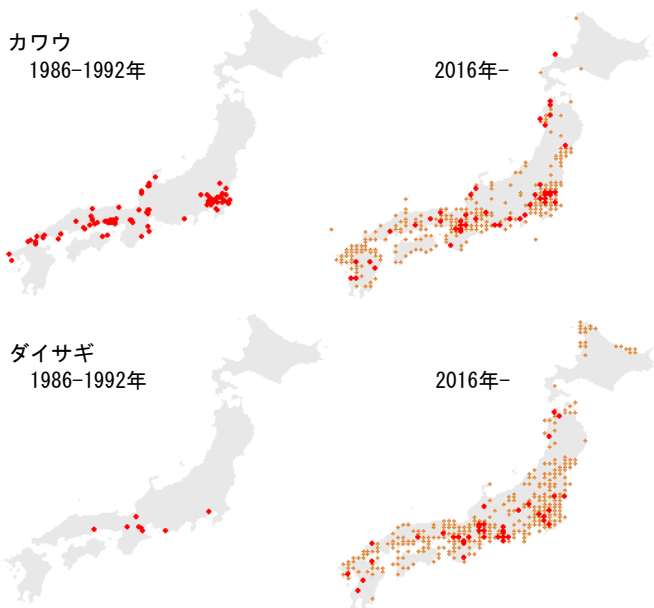


図1 カワウとダイサギのコロニーの分布。左が1986-1992年の「コロニー調査」の結果、右が今回の結果。赤がコロニーの確認地点を示し、オレンジは生息が確認された地域。

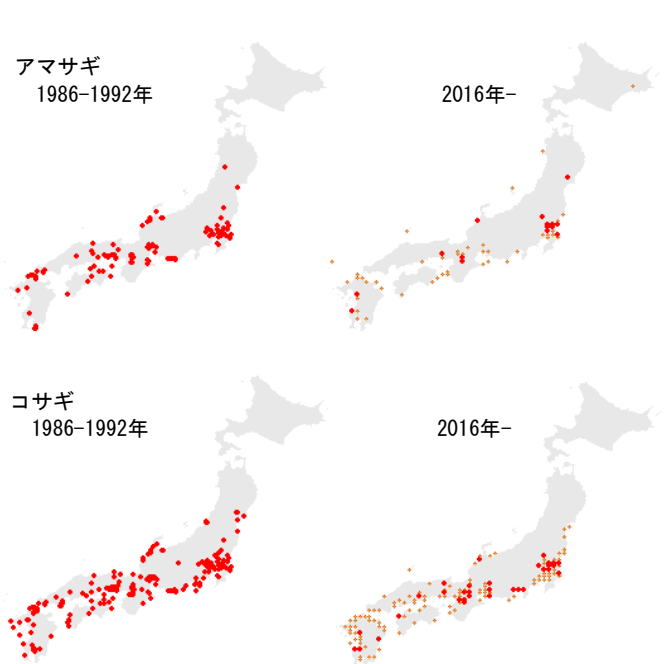


図2 分布が縮小していた小形サギ類。凡例は図1と同様。



コロニーで繁殖するアオサギ(湯浅芳彦), チュウサギやゴイサギ(小野和加子), イワツバメ(矢田新平)

メはよく橋の下に営巣する鳥です。そこで、東京都と神奈川県を流れる多摩川およびその支流の橋を上流から下流まで調べ、イワツバメのコロニーの分布を明らかにしました。

中流に多いイワツバメの巣

橋のチェック結果から、イワツバメのコロニーは中流の橋に多く、上流と下流の橋で少ないことがわかりました(図3)。下流は、食物になる昆虫が少ないなどの理由で、イワツバメが少ないのかもしれませんが、上流で少ないのは、イワツバメに山の鳥のイメージがあっただけに、意外な結果でした。

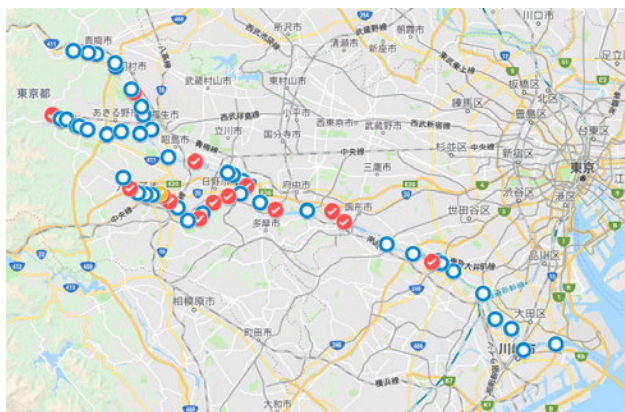


図3 多摩川のイワツバメの分布。赤丸がイワツバメのコロニーが確認された場所、青丸はイワツバメが見られなかった橋、

最上流部にあるイワツバメのコロニーの確認地点は、実は川ではなく、川のそばの駅に営巣していたのをたまたま見つけた記録です。

上流の方では橋ではなく、そうした建物などに営巣していることが多いため、「上流の橋には少ない」という結果になった可能性があります。東京都繁殖分布調査の結果を見ても、都心部では、確かにかなり少なそうです

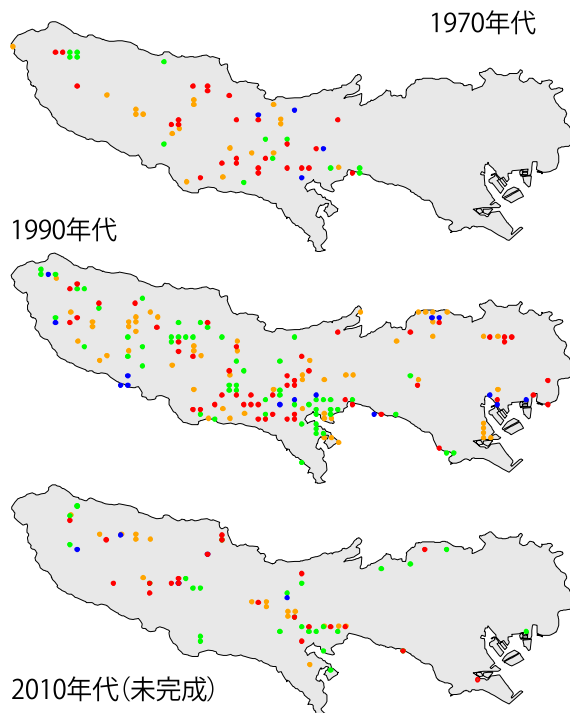


図4 東京のイワツバメの分布。●: 繁殖を確認, ●: 繁殖の可能性あり, ●: 繁殖については何とも言えない, ●: 移動/採食を確認

が、上流部の方と、中流部では分布がそれほど違う感じではありません。そこから、利用する場所が違うために、このような分布になった可能性が考えられます。

もう1つ気になったのは、スズメとの関係です。90年代に調査した時にはスズメがイワツバメの巣を乗っ取って営巣している巣が多く、イワツバメにとってはスズメがかなりの脅威になっているように思いました。しかし、今回、イワツバメの巣を利用しているスズメはあまり見かけず、同じ橋で営巣していても、スズメはイワツバメの巣ではなく、橋の隙間で営巣していました。スズメの営巣場所選択が変わったのか、何なのか、それもちょっと気になりました。

【植田睦之】

ツイッターで参加する カッコウホトトギス調査 「#カッコウどこ」

ツイッターによる分布調査「#カッコウどこ」を行なったところ、カッコウの情報121件、ホトトギスの情報105件が得られました。これまでにない層の参加者が得られる点などにツイッターならではの可能性を感じました。



カッコウ(高山裕子)

2019年の繁殖期、全国鳥類繁殖分布調査、および「鳥の調査に参加する」ということ自体を楽しんでいただくためのイベントとして、ツイッターでカッコウとホトトギスの情報を収集する調査を実施しました。ツイッターにアカウントを持っている人であれば誰でも参加できる調査で、カッコウまたはホトトギスの「カッコー」「トッキョキョカキョク」というあの鳴き声を聞いたら、種名と、場所、日付をつぶやいてもらうというものです。その際、つぶやきにハッシュタグ「#カッコウどこ」を付すことで、その情報を集めることができるという仕組みです。ホームページを作成したのち、告知、情報収集、報告、アンケートなどほとんどをツイッターで実施しました。なお、調査の概要を見てもらうための工夫と参加者へのお礼の代わりを兼ねて、ホームページに「まめちしき」のコーナーを設け、カッコウとホトトギスに関する短い記事を載せました。今も掲載してありますので、お暇な方はよかったらのぞいてみてください。

5月1日から6月30日までの間に、93のアカウントから種名、場所、日付をつぶやいていただきました。実際に観察期間中にどのくらいのデータがツイッターから得られたかを表に示しました。

表1 「#カッコウどこ」で得られた場所・日付の情報

	カッコウ	ホトトギス	ツツドリ(参考)
1) ツイート数	121	105	34
2) 観察地点数	109	102	34
3) 都道府県	28	30	13
4) 2次メッシュ数	79	80	30

カッコウの記録

カッコウについて、日本全国幅広い地域からご報告をいただきました。東日本のほうが多かったのですが、宮古島からの報告には驚きました。1990年代の繁殖分布調査では沖縄県の記録自体がありませんでした。全国

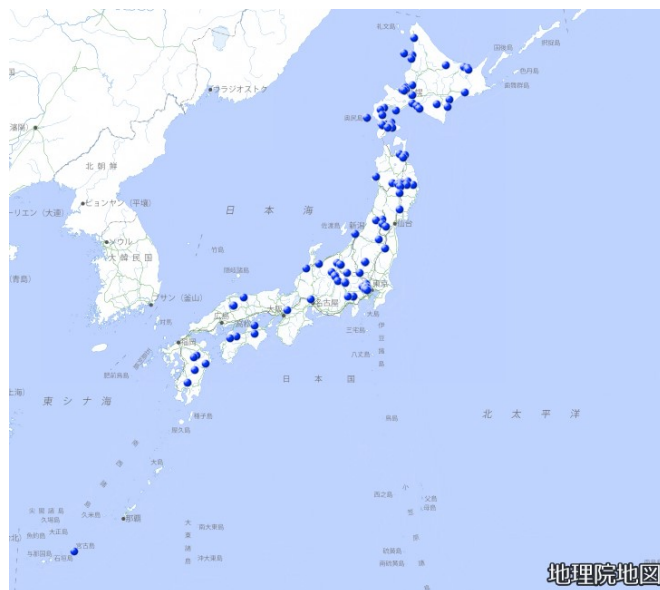


図1 「#カッコウどこ」で得られたカッコウ観察地点

鳥類繁殖分布調査では、2016-2018年までの3年間に、2次メッシュ数にして現地調査のコースでは413、アンケート調査では196メッシュで観察されています。現地調査はそもそも全国各地を網羅できるようコースが設定されていますので単純に比較するものでもありませんが、今回、「カッコウどこ」で1シーズンのみで79メッシュの情報が得られた、というのはなかなか健闘できたのではないかと思います。

ホトトギスの記録

ホトトギスについても、各地からご報告いただきました。特に興味深かった情報のひとつは、北海道の十勝の大樹町でさえずっていたことです。ホトトギスは北海道の大部分には生息しておらず、道南が生息の北限・東限だと言われてきましたし、おおむね現在もその状況であると思われていますが、分布は広がっているのかもしれない。また、参考情報としていただいたロシアの記録



図2 「#カッコウどこ」で得られたホトギス観察地点

がわずかに北海道の生息域より北(北緯43.38度)であったことも興味深かったです。なお、全国鳥類繁殖分布調査では、2016-2018年までの3年間に、2次メッシュ数にして現地調査のコースでは770、アンケート調査では385メッシュで観察されています。ホトギスのほうがカッコウよりも生息範囲が広いようですが「カッコウどこ」では、80メッシュにとどまりました。バードウォッチャー以外の方には声の難しさがハードルになったのかもしれませんが。インターネットで検索したり、人づてに話を聞いてみたところでは、ホトギスとウグイス、エゾセンニュウの声の区別が難しいと感じる人は多いようです。一つをじっくり覚えると「じゃないほう」も聞き分けられるようになると思うので、まずはウグイスのさえずりからバードウォッチャー以外の方に、もっと親んでいただく機会を増やせたら、と思います。

参加者はどんな人

イベントの終了後に、どんな人が参加したのかというアンケートを実施しました(図4)。選択肢は3つ、生き物を確認した日や場所を報告する調査に参加したのは「1.ツイッター報告型でもそれ以外でもカッコウどこが初」「2.ツイッターでの報告は初めてだがそれ以外は経験あり」「3.ツイッターでもそれ以外でも経験がある」でした。最も多かったのは2で半数を超えました。参加者のプロフィールを覗かせてもらえると、バードウォッチャーも多かったのですが、植物や虫のプロおよびアマチュア研究者も見られました。そういった主要な活動の場が異なる方々からの情報が得られるのはツイッターならではの面



図3 ホトギス(吉村正則)

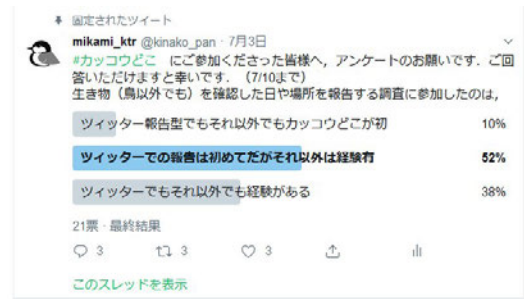


図4 「#カッコウどこ」参加者の内訳

白さを感じました。ツイッターという手段が鳥の調査に参加することに対するハードルをどのくらい下げたのかを評価するのは難しいですが、わずかとはいえ、初参加という方もいらっしゃいましたし、直接「参加しやすかった」という言葉をくださった方もいてよかったです。

謝辞

今回のプロジェクトでは、以下のアカウントの皆さまにカッコウ・ホトギス・ツツドリ的位置・日付情報をつぶやいていただきました。この場を借りてお礼を申し上げます。報告いただいたデータは、全国鳥類繁殖分布調査の「アンケート調査」として利用させていただきます。

- @bird_atlasjp, @Tommy_sky_, @metabonaotoko, @kmfr502, @atk_ho, @haltaq, @aranamiy3, @sukagawa123, @nao8724, @nyosuko, @kinako_pan, @htjgs, @o_k_mikami, @barararabirds, @albatross_hi, @mahoroszk, @51b6bp5mQb62j3H, @soochang7, @sawchain_suger, @jiko00jiko, @nagaiyoji, @kasasagi1979, @Labaninus, @doroyebisu, @mjueta, @teampigeon, @ginmashiko, @waradimushi, @monotropastrum, @kufukufu92, @Landschaft_note, @daddygoose, @Wildbir07734535, @KyoyaKazoo, @wildbirdin, @PXshTodcWoic9NV, @goxtuchi, @NewOtkass, @kawamaaaaaa, @miyateken, @Madkumagera, @nimaB4RSK, @ykyf01, @_x_hibagon_x_, @Nakahezi, @amsel61563098, @ponpopopon222, @outesama, @naisen615, @safehouse10, @ak2nagi, @jimny08, @snowploughs, @yurizukikamome1, @Campesino_Asb, @hana16161616, @saijonature, @kusakaaoi, @dainyan08, @sepak_bird, @rosssgull, @Aceface4ever, @ygnmrhk, @Tanoshisa_ippai, @june_tokyo, @kabitsukai, @sayakasbs, @oichi6711, @11223445566mimi, @jash1084, @wataridoriwally, @BirdingPage, @B1virgospica098, @slowlyslowly_6, @kimegukurumi, @kobo_umuki, @yabu_kichi, @mono_wasure, @k_ooi, @kanakanakana, @scolopax_odenya, @potenpam, @pon8sagii, @Iwahibari, @sawagani550cc, @Bluebird0037, @shibalabo, @JAISLT, @th_fall, @kaituburi_mm, @toshisuzuki6, @toriminin, @Turdus_pallidus(順不同)

【三上かつら】

分布図の確認作業にご協力ください

● 分布図のチェックのお願い

すでにお知らせしましたが、現時点で、調査の終了したコースが80%を超え、分布図もそれなりの精度で示せるようになりました。

そこで、分布図のチェックをして、間違いを修正したり、漏れている情報をアンケートで補う作業を本格的にスタートしたいと思います。

すでにいくつかの地域では、実施していただいているのですが、識別や入力ミスに加え、渡りの途中の個体を「繁殖」として記録していることも多いことがわかりました。こうした記録は、地元の方でないと判断がつかないものなので、ぜひ皆さんにチェックをお願いしたいと思います。

また、生息しているにもかかわらず、情報が漏れているものも多くあります。特に、現地調査コースが森林内に設置されていることが多いため、キジやモズなど、農地や草地など開けた場所にいる鳥の情報が漏れがちな傾向があります。そうした情報を見つけていただき、アンケート調査で補っていただきたいのです。

● チェックの方法

全国スケールの分布図では、チェックが困難なので、県別の分布図を作成します。その分布図をダウンロードしていただき、誤りと思われる情報があれば、それに○をつけていただき、理由とともに、メールいただくのがチェックの作業です。

あわせて、いるはずの場所に記録がない種を見つけた場合は、アンケート調査で、その情報をお送りください。

<https://www.bird-atlas.jp/send.html>

<http://www.bird-atlas.jp/bbaq.html>

分布図のチェックをお手伝いいただける方には、詳細をお知らせしますので、事務局までご連絡ください。

bbs@bird-research.jp

なお、全国の分布図は以下よりご覧いただくことができます。

<https://www.bird-atlas.jp/result2.html>

日本鳥学会大会 9月13日から16日に東京で

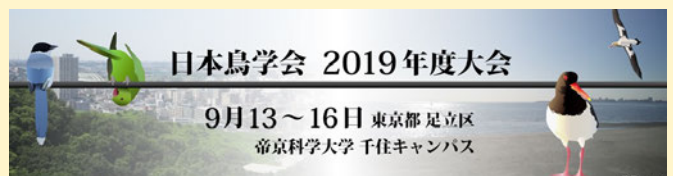
今年の日本鳥学会大会は9月13日から16日の日程で、東京都足立区の帝京科学大学で開かれます。

学会というと、立ち入りにくい場所のように思いますが、日本鳥学会は学者よりも学生やアマチュア研究者の方が多く、開かれた会です。

今年はより参加しやすいように、学部生以下の参加費を無料にしたり、1日だけのお試し参加(参加費が格安の1000円)を設けたりしていますので、興味のある方は、ぜひ参加してみたいかでしょうか？

大会のプログラムや発表内容などがすでにホームページで公開されていますので、ご興味のある方はご覧ください。なお、1日だけのお試し参加は事前申し込みのみで、締め切りは8月末なのでご注意ください。

<http://osj2019.ornithology.jp/index.html>



全国鳥類繁殖分布調査ニュースレター 第15号

2019年 8月 9日 発行

編集: 植田睦之, 新井実保子, 榎本博子, 串田卓弥, 小峯昇, 笹倉ちえか, 野口真磨子, 藤田薫

© バードリサーチ・日本野鳥の会・日本自然保護協会・日本鳥類標識協会・山階鳥類研究所・環境省生物多様性センター

URL <http://www.bird-atlas.jp> <https://www.facebook.com/birdatlasjp> https://twitter.com/bird_atlasjp